

2026年度の資源評価結果の要点（ズワイガニ日本海系群A海域）

ポイント

- ズワイガニの資源量は、調査船調査による調査で把握するとともに、サイズ（甲幅）組成※1から今後の資源量の変化を予測（図1、図2）
- 調査結果では、2020年頃より8齢※2以下（甲幅で約40mm以下）の小型個体が増加したが、2024年以降は小型個体の採集数が大きく減少（図2）
- 12齢のミズガニ※3（雄）とクロコ※4（雌）は2026年漁期まで、13齢のカタガニ※3（雄）は2028年漁期までは多いものの、その後は少なくなると予測されている（図3）
- 今後、資源量が減少することが予想されることから、現在の漁獲対象資源を持続的かつ安定的に利用することが重要※5
- なお、2026年の調査結果では8齢以下の小型個体も採集され始め、資源の回復が期待される兆候も見られている（図2）

※1 調査船調査では、漁獲対象サイズ未満の小型個体も採集される。これら小型個体の年別の変化から今後の漁獲対象となる資源量を3～4年前から予測可能となる

※2 ズワイガニについては、1回脱皮するごとに1齢加算するため、齢と年齢は異なる

※3 脱皮後1年以上経過したオスの成熟カニ（カタガニ）は実入りが多く経済価値が高い。一方、脱皮直後のオスはミズガニと呼ばれ、実入りが少なく、経済価値が低い

※4 クロコは発生が進んだ茶褐色から黒紫色の外卵を抱卵した成熟雌である

※5 取り組み例として、本系群の資源管理指針では、ABCの上限が3,000トンと定められている

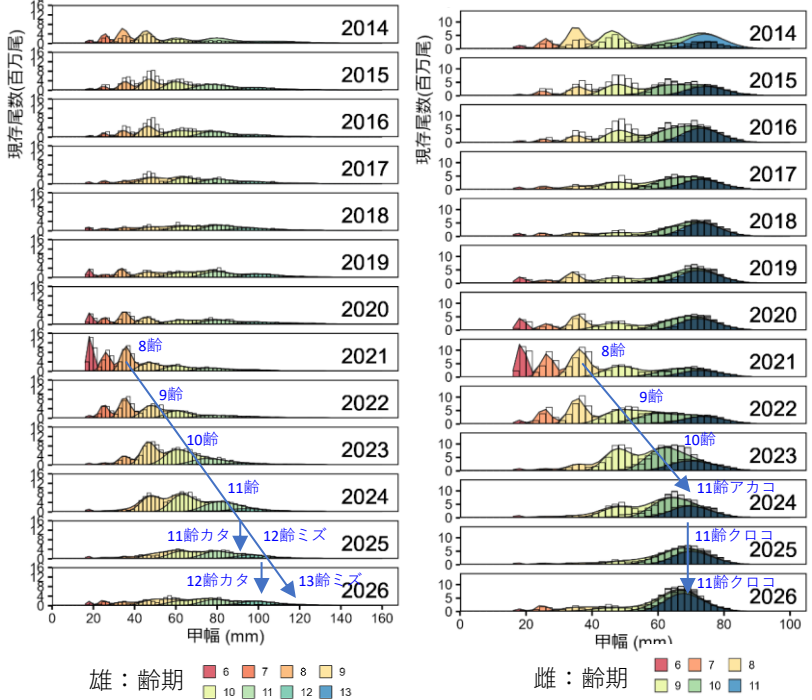


図2 調査結果で得られたズワイガニのサイズ組成の変化
 青線は2021年の調査結果における8齢の個体の変化を示す。これらの個体は、2024年調査時（4～6月）には11齢となり、その後1回脱皮して2024年漁期（11月）には12齢のミズガニ（雄）、11齢のクロコ（雌）として漁獲加入する。さらに、2026年調査時（2025年漁期）には12齢のカタガニ、または13齢のミズガニとなる

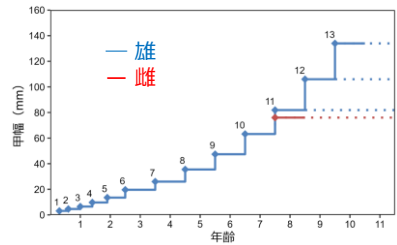


図1 ズワイガニの成長模式図
 10齢（6-7歳）までは雌雄とも成長が同じであるが、雌は11齢で成熟し、成長が止まる。雄は11齢で成熟して成長が止まる個体もあるが、12齢、13齢まで成長する。成熟して成長が止まった後も数年程度（寿命としては10年以上）生きると考えられている（点線）

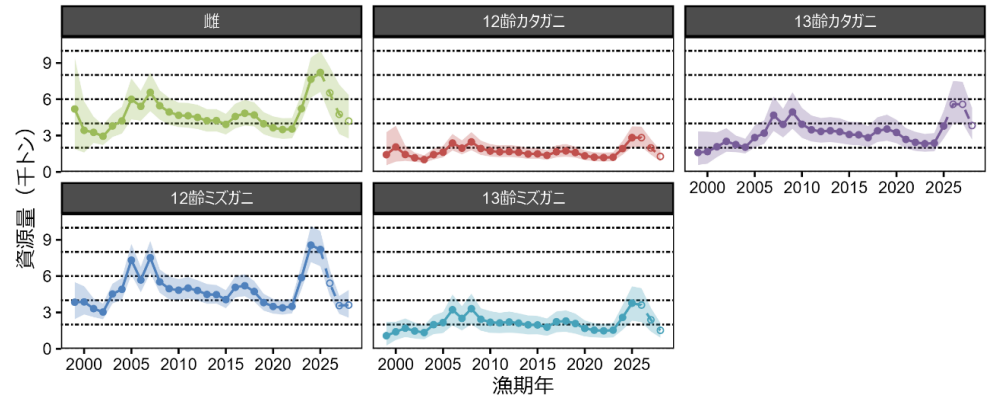


図3 調査結果から推定した資源量の変化と今後の予測結果
 資源量を、漁獲対象となるクロコ（雌）、12齢以上のミズガニ（雄）、12齢以上のカタガニ（雄）別に示した。調査船調査結果によるサイズ組成（小型個体の分布量）の変化から、2026年漁期までは12齢のミズガニ（雄）、11齢のクロコ（雌）の資源量が多く、2028年漁期までは13齢のカタガニが多いものの、その後は減少すると予測されている